

よくある質問と回答(FAQ)第2回

利用編

Q. 附属図書館の開館日を増やしてほしい。

A. 附属図書館では、開館日数と開館時間の拡充を検討した結果、平成18年度から試行的に開館日数を拡大しています。

平成18年度開館日数の拡大(試行)

夏季休業中の土・日・祝日

→ 開館(16日増)(通常の土・日・祝日と同じく10時から17時まで開館)

図書整備等のための休館

冬季休業期間→ 12月25、26日と1月5日は開館する(3日増)

年度当初→ 4月4日～5日は開館する(2日)

毎月月末→ 試験期間中(7月、1月)は開館する(2日増)

23日開館日を拡大(平成18年度)

Q. 附属図書館のOSLは平日しか利用できません。これを、土日も開放できませんか？

A. 土曜・日曜・祝日について、平成18年2月24日(土)から下記の要領で3階情報端末室の一部を試行開室いたしました。

開室する日時：土・日・祝日の開館日

10時～16時30分(開館時刻から閉館時刻の30分前まで)

開室する部屋：附属図書館3階(北側)情報端末室1 PC50台設置

開室条件：室内のOSL機器はいずれも学術情報メディアセンター所有のため、これら土・日・祝日の運用方針は下記の通り学術情報メディアセンターの土曜日の提供方針に準じます。

- (1) プリンターは、使用を停止します。
- (2) 障害やトラブル等に対応しません。
- (3) TAは配置しません。

その他：情報端末室1では、持ち込みPCを学内LANに接続できます。

備考：利用実態を見て、西側の情報端末室2(PC30台)の追加開室も考慮します。

資料編

Q. 学生購入希望図書で「絶版品切れ」で購入不可と回答のある図書を古書店等で購入してほしい。

A. 学生購入希望図書については、授業やレポート作成などの目的など当面の利用のために希望される場合と、当館の蔵書の体系的整備の観点から欠けているとして購入を求める場合とに分かれます。(両方を兼ねる場合もあります)。

前者の場合の古書は、他大学等から一時的に借用する(相互貸借)ことで目的を達することができます。国内での所蔵先は、NACSIS Webcat¹⁾やWebcat Plus²⁾で検索可能です。国内に所蔵が無い場合には、海外の図書館からの借用も可能な場合があります(一般に、やや時間を要します)。附属図書館の場合には、1階の相互利用カウンターにご相談ください。相互貸借を受け付けている部局図書館もあります³⁾ので、身近な図書館・室をご利用ください。

なお後者のように、当館の蔵書として必要であると判断した図書は継続的に探して購入いたしますので、希望理由にその旨をご記入ください。

1) NACSIS Webcat

<http://webcat.nii.ac.jp/>

2) Webcat Plus

<http://webcatplus.nii.ac.jp/>

3) 学内図書館・室のサービス一覧

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

[modules/libraries/index-j.html](http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/libraries/index-j.html)

「附属図書館の24時間開館が 困難なことについて」

附属図書館の24時間開館については、総長と学生とのキャンパスミーティング^{注1)}や「学生生活実態調査報告(自由記述)」^{注2)}などで要望されておりますが、24時間開館が実施困難であるため、理由を説明致します。

現在の附属図書館の建物は1983年に竣工しましたが、24時間開館を念頭において設計されておられません。

現在の施設を使用して24時間開館を実現する上での問題点を把握するために改めて館内を点検したところ、利用者の安全性確保、利用者スペースと業務スペースの調整、空調設備の合理的運用等の点から防犯・防火や快適さを考慮すると、施設の大幅な改修が必要になることが判明しました。また、安全な運営のためには24時間の人員配置および経費の確保も不可欠です。

所要経費を推算したところ、1階から3階ま

でを開放した場合で、改修経費は約500万円ですが、年間の維持経費として人件費と光熱水料で約5,380万円が新たに発生することが分かっています(仮に1階のみ開放としても、施設改修に約3,000万円、年間の維持経費は約2,500万円が見込まれます)。

このようなデータ等を踏まえて、図書館協議会、役員懇談会で議論していただいたところ、附属図書館の24時間開館は実施困難であることが了承されています。

多くの意見では、ご希望のいわゆる時間外の学習のためには、図書館の蔵書を必要としないとの意向が強いと言われておりますから、当該学習スペースの確保については、図書館以外に教室の開放なり、遊休施設の利用の他、新たな施設設置の際に考慮するなどの方法も考えられると思います。

参考までに、海外や国内の主要大学の中央図書館について調査した結果を示します。ただし、網羅的な調査ではありません。

注1) http://www.kyoto-u.ac.jp/notice/05_notice/ippan/051109.htm

2) http://www.kyoto-u.ac.jp/student/04_zitai/houkoku.htm

海外の主要な大学、および国内の同規模大学の開館時間

1. 海外の主要大学

(曜日によって開館時間を短縮する大学がある)

大 学	国	主たる開館時間
ケンブリッジ大学	英国	9時～19時15分(一部22時まで)
メルボルン大学	豪州	8時30分～22時(一部23時まで)
カリフォルニア大学 (バークレイ)	米国	8時～21時
カリフォルニア大学 (ロサンゼルス)	米国	9時～17時
ソウル大学校	韓国	6時～23時(一部24時間開館)
延世大学校	韓国	6時～23時(一部24時間開館)
精華大学	中国	7時30分～22時30分
北京大学	中国	6時30分～22時30分

2. 国内主要大学

大 学	平 日	休 日
北海道大学	8時30分～22時	9時30分～17時
東 北 大 学	9時～21時	10時～17時
東 京 大 学	8時30分～22時30分	9時～19時
名古屋大学	8時45分～22時	10時～17時
大 阪 大 学	9時～21時	10時～17時
九 州 大 学	9時～22時	10時30分～18時